

553.317 (521.29) : 550.85

千葉県銚子市の砂鉄鉱床\* (抄録)

服部 富雄\*\*

銚子市の海岸線は延長 20 km 余に及ぶが、その大半は岩礁および断崖で、砂浜は川口町千人塚—夫婦が鼻間、黒生—海鹿島間、君が浜、長崎鼻付近および犬若浜などの数カ所にみられるにすぎず、これらも礫混りの砂あるいは砂礫からなることが多い。

今回の調査において、砂鉄の打上げを認めたもの21カ所、外浜型の浜砂鉄3カ所であるが、現在、銚子市内で稼行されているのは犬若鉱山(鉱業権者 山口克巳、月産精鉱120~130 t, Fe 57~58%) および大谷津(鉱業権者 柴田栄吉他1, 月産50 t, Fe 58% 見込)の2つである。

調査の結果、銚子市の海岸線には各所に汀線打上げ砂鉄が認められるが、とくに通蓮洞東方海岸・名洗町船入場などには、現在採掘している大谷津よりも良好な砂鉄の打上げを、また、川口町東部その他数カ所においても月産20~30t程度ならば稼行にたええると思われる打上げ砂鉄を認めた。屏風が浦にはかなりの距離にわたって広く砂鉄の打上げがみられるが、周囲の地形その他の立地条件からみて採掘は困難と思われる。犬若鉱山では、今後地元の協力が得られ、犬若浜東半部の採掘が可能になれば生産は倍加するであろう。

本区域の汀線打上げ砂鉄は一般に30%以上の着磁率を示すが、名洗町船入場(79.5%)・通蓮洞東方海岸(81.1%)、あるいは黒生(76.6%)などの打上げ砂鉄は無選鉱のまま出荷できるほどの良品位を示す。犬若浜西部では繰り返し採取が行なわれているため自然の淘汰濃集は不十分で、品位も低い(着磁率7.5%)。夫婦が鼻西方および君が浜の外浜型砂鉄は規模が小さく、しかも品位も低い(着磁率5~6%, 最高15%)ので稼行の対象とはならない。

原砂と着磁砂との粒度のピークは高品位試料では一致するが、低品位試料では着磁砂のピークは原砂のそれより細かい(しかし川口町千人塚では逆である)。着磁砂

は一般に60~120 meshの粒度を示し、打上げ砂鉄では、そのピークが60~80 meshにあるものが大部分を占めるが、川口東方・夫婦が鼻西方・海鹿島北方および犬若東浜の試料の着磁砂のそれは80~120 meshにある。なお外浜型の着磁砂は現汀線の打上げのものより粒度が細かい。

今回は銚子市の海岸砂鉄について調査を行なったが、今後は屏風が浦沖その他の海底砂鉄鉱床について調査をすすめる必要がある。また銚子市の北西部には、低品位ではあるが洪積世砂鉄の賦存する可能性がある。

訂正

服部富雄：本邦の含チタン砂鉄資源 地質調査所報告特別号(E)

訂正箇所	誤	正
3頁 第3表 4段目	FeTiO <sub>2</sub>	FeTiO <sub>3</sub>
" " 7段目	Rutil	Rutile
6頁 第9表	洪積世砂鉄と沖積世砂鉄との境の線を、原地残留砂鉄の中間の位置におき、地質時代の砂鉄と現世の砂鉄との境も、これにそえる。	
6頁 第9表	河床砂鉄	川床砂鉄
27頁 第20表・第21表の局別の欄	北海道 東北 九州	札幌 仙台 福岡
27頁 第22表	第2次	第5次
" "	第3次	第7次
27頁 第22表 埋蔵鉱量	103,548	103,547
" " "	159,638	159,639
" " 含有鉄量	2,883.7	2,888
" " "	19,984.5	19,973
" " "	22,189.6	22,237
" " "	59,510.8	59,512.7
28頁 第21表	川砂鉄	川床砂鉄
付図 含チタン砂鉄鉱床分布図 (1)~(3)	「○でかこんだ Ti」の記号は、砂チタンないしチタン砂鉄の産地をしめす。	
付図 " (2)	南田原 平砂浜	南三原 平砂浦

\* 銚子市の依頼による調査、発表を許可された銚子市当局に感謝する。

\*\* 鉱床部